

令和2年度

事業計画

社会福祉法人 幸生福祉会

# 理 念

人と人との出会い、心の交流をとおして生きがいを見つけ、活力ある日々をその人らしい生き方で、安心して共に暮らせる施設を目指します。

## 基 本 方 針

少子高齢化が進み社会情勢が大きく変化していく中、活気あふれる風通しの良い職場環境を構築し、利用者が心身ともに安心して健やかな日常生活が送れる環境整備と心の癒しや楽しい笑顔が溢れる空間を大切に、人生の希望とやすらぎのある充実した楽園を築く。

## 事 業 計 画

### (1) 経営基盤

社会情勢が変化し制度改革が行われた現在、法人として柔軟な対応ができる組織の確立や介護保険制度の動向を的確に捉え、地域における活動拠点として中長期的な計画を視野に入れた経営活動を行ない社会貢献に意識した経営戦略を図る。

### (2) 事業運営

社会のニーズは多様化し、福祉サービスに対するニーズが質・量ともに大きく変化する中、利用者の視点を取り入れたサービス評価委員会を中心とした質の高い介護サービスの提供に努め、社会情勢の流れに沿った最善の施設運営に努める。

### (3) 設備管理

建物や設備など経年劣化が見受けられる部分には、専門業者の点検を定期的を実施し、機器類の故障が多い箇所については、緊急時にも対応できる業者を考察し、計画的に修繕や業務の効率化が図れる機器に順次更新し、施設整備の維持管理に努める。

### (4) 人材育成

求職者の減少や新卒採用の低迷により介護職員の人手不足が問題もあるが、継続した質の高いサービスを提供するため、勉強会や施設内研修を定期的を実施し個々のスキルアップを図り、日常業務の中で業務内容を自主的に考えて行動できる時間帯を設ける。

### (5) 地域活動

高齢化による寝たきりや認知症高齢者の増加に伴い、介護をする人材の低下も予測される中、地域における高齢者のニーズに応じた社会資源の活用を考察し、地域のボランティア団体や地域住民との連携を図り、住み慣れた地域で安心して暮らせる施設として活動する。

## 特別養護老人ホーム 九十九園（介護老人福祉施設）

### ショートステイ九十九園（短期入所生活介護）

- 1 利用定員 特別養護老人ホーム 50 名  
ショートステイ 10 名
- 2 職員定数 40 名 施設長、生活相談員、介護職員、看護職員、  
介護支援専門員、管理栄養士、医師(非常勤)
- 3 事業運営
  - (1) 利用者に必要な日常生活の支援及び健康管理・機能訓練等を行うことにより、利用者が有する能力に応じて自立した日常生活が営めるよう、介護職員や看護師、管理栄養士が連携を図り、利用者主体を考えた支援に努める。
  - (2) ショートステイを利用する事によって在宅での生活が続けられるように、利用者の生活習慣を大切にし、心身共に快適な生活の場となるように努める。
- 4 基本計画
  - (1) 介護リーダーを中心に報告、連絡、相談がしやすい職場環境を整備し、日々の職員間でのコミュニケーションを介護リーダーが積極的に働きかけ、職員面談等を通じて意識の共有を図り、職員間の円滑な空間を確保していく。
  - (2) 日常の余暇活動の充実を図り、利用者へ関わる時間を捻出して、QOLの向上を図れるように、各職員が意識して取り組む。
- 5 基本姿勢
  - (1) 自立した日常生活が、生きがいある楽しめる時間を作り出し、利用者のADLと生活の質が向上できる環境を確保し、利用者へ寄り添ったケアを提供する。
  - (2) 明るい笑顔と丁寧な挨拶を心がけ、本人の能力を発揮した生活が送れるよう、個別で関われる時間を大切に健康的な暮らしの継続ができるように支援する。
- 6 資質向上
  - ① 日々の業務以外に、利用者とは個別に関わりを持てる余暇活動の時間を確保し、日常業務での職員間の意思共有を図り、毎月のリーダーミーティング開催時には、他職種の職員に参加を促しケア方針の統一を図る。
  - ② 全体レクリエーションや個別での散歩、余暇活動への意識を職員が自主的に考え行動できる時間をつくり出すなどの意識改革を行い、利用者が生きがいを持って、いつも笑顔で楽しめるサービスの提供が継続できるように努める。
  - ③ 他職種、嘱託医との連携を深め、食の楽しみも残しながら食事形態の検討や必要に応じて栄養剤の使用など、利用者に応じた栄養マネジメントの実践を行い、委託業者と栄養価を考慮した食事内容を検討する。
  - ④ 勉強会や施設内研修への積極的な参加を促し、職員個々に専門職としての自覚を持たせ、スキルアップを図る。

## ケアハウス九十九園（軽費老人ホーム）

- 1 利用定員 30 名
- 2 職員定数 4 名 施設長、生活相談員、介護職員
- 3 事業運営  
高齢者の特性に配慮した住みよい住居を提供し、日常生活に必要な便宜を提供することにより、利用者が安心して明るく自立した生活できるように支援する。
- 4 基本計画  
入居者間での親交が図れるように、楽しみや生きがいを持てる活動を企画し、日々の関わりの中で利用者の状態把握に努めADL、QOLの向上に努める。
- 5 基本姿勢  
自立した日常生活が送れるように、状態に応じて介護サービス等の利用の提案や助言を行いながら、意欲が向上できるように支援する。
- 6 資質向上
  - ① 家族や他職種との連携を図り、状態変化に合わせたサービス等の提案をし、安定した日常生活が維持出来るように努める。
  - ② 日々の関わりの中で認知症や精神面等の症状で、他者への迷惑行為がないかを観察し、家族との連携を図りながら日常生活が維持できるように支援する。

## デイサービスセンター 九十九園（通所介護）

- 1 利用定員 50 名
- 2 職員定数 17 名 管理者、生活相談員、介護職員、看護職員
- 3 事業運営  
在宅の虚弱な高齢者に対し、通所により各種の介護サービスを提供することによって、生活の助長、社会的孤立感の解消を図る。
- 4 基本計画  
利用者の出来ないことばかりを探るのではなく、出来ることを発見して職員間で情報を共有し、スムーズなケアで利用者の所持能力の維持向上に繋がられるサービスを提供する。
- 5 基本姿勢  
業務的なサービスではなく、利用者のニーズに応じて可能な事には積極的に取り組み、サービス内容がパターン化し過ぎないように職員間で工夫をし、利用者の機能活用機会を増やしていく。
- 6 資質向上
  - ① 思い込みの介助とならないよう職員一人一人が介助の意味を理解できるように、理由を考え聞く習慣をつけ、利用者主体の視点でケアに当たれるように努めて介護技術の向上と応用力をつける。
  - ② ミーティングやカンファレンス時には利用者の情報共有を行い、決まったパターンにとらわれず、本人にとって充実した楽しいサービス活動の機会を設ける。

## 九十九園 京田辺市居宅介護支援センター（居宅介護支援事業所）

- 1 職員定数 4名 管理者、介護支援専門員
- 2 事業運営  
要介護者の意思を尊重し、介護度や生活環境に応じて介護計画を作成し、介護サービス事業者を紹介したり、サービス提供に関し連絡や調整を行なう。
- 3 基本計画  
事業所の独自サービスやインフォーマルサービス等を検討しながら、自分らしい在宅生活が続けられるように支援を行っていく。
- 4 基本姿勢  
利用者や家族の生活状態を把握し、事業所等からの情報を交えながら利用者プランの見直しを行い、在宅での生活が続けられるような支援を行っていく。
- 5 資質向上
  - ① 集団指導や研修、地域ケア会議などを通じて他事業所との連携を密に図り、職員会議にて利用者情報を共有していく。
  - ② 重度化が進む高齢者に対して、介護者の負担やストレスが大きくなるよう、地域における事業所や地域資源の特徴を説明できるように職員間で共有し、自宅で生活が送れるように支援を行っていく。

## 在宅介護支援センター九十九園（窓口相談事業所）

- 1 職員定数 4名 管理者、介護支援専門員
- 2 事業運営  
京田辺市からの委託を受け、介護認定で自立（非該当）と認定された方や、介護認定を申請する程でもない65歳以上の高齢者の相談援助を行う。
- 3 基本計画  
独居生活を行う利用者に対しての援助が、介護保険サービスだけでは難しく、入所サービスへの移行が増えている中で、利用者の心身の状況を踏まえた在宅サービスの紹介や相談援助などの支援を行なう。
- 3 基本姿勢  
核家族化の増加や介護者の高齢化に伴う相談に対して、敏速で丁寧な対応を図り、高齢者の在宅生活を支える地域福祉サービスの案内を行なう。
- 4 資質向上
  - ① 定例会議への出席により、地域包括支援センターとの連携を図る。
  - ② 介護保険の申請手続きや介護保険外の住宅改修等の支援を行なう。

## ヘルパーステーション 九十九園（訪問介護）

- 1 職員定数 4名 管理者、サービス提供責任者、訪問介護員
- 2 事業運営  
在宅での生活が維持向上出来るように、利用者の個々に応じたりズムや生活スタイルを合わせたサービスが提供できるように努める。
- 3 基本計画  
利用者が出来る限り、在宅で安心して自立した日常生活が送れるように、日々の状態変化を把握し、職員間での情報の共有を図り適切な支援を行う。
- 4 基本姿勢  
利用者の心身の状態に応じたサービスが提供できるよう、訪問時の振り返りを行い提供記録に作業内容を丁寧に記入し、専門職としての責任感を持つ。
- 5 資質向上
  - ① 専門的な知識が乏しい部分については、積極的に研修会へ参加し、施設内研修や勉強会を通じて学ぶ。
  - ② 日々のミーティングや連絡ノートを活用して、利用者情報を定期的に確認して職員一人ひとりがひとりがスキルアップを図るように心掛ける。

## 本部

- 1 職員定数 4名 施設長、事務職員
- 2 事業運営  
介護保険制度改正による変更に対応し、必要に応じて規程の改訂やマニュアルを改訂し、適正な事業運営に努める。
- 3 基本計画  
建物や設備など、経年劣化が見受けられる部分や業務の効率化を図る機器更新や修繕を実施し中長期的な経営の安定を図る。
- 4 基本姿勢  
報告・連絡・相談を必ず行い、会話することでさらなる理解が得られるようコミュニケーションを図り、情報共有する部分の伝達が延滞無く各部署に繋げる。
- 5 資質向上
  - ① 法改正などで多々変化する制度について、個々で理解する能力乏しい部分についてはインターネット等を活用し、知識や情報を習得できるよう努める。
  - ② 研修等の積極的な参加により個々の知識と意欲の向上を図り、規定やマニュアルが現行と不一致な部分を精査し、時代に合った内容に整備する。

令和2年度事業方針

| 部署                    | 現状と課題   | 新年度方針  | 取組  |
|-----------------------|---|--|---|
| <p>特養</p> <p>ショート</p> | <p>① 介護リーダーとしての役割が明確でなく、職員間のコミュニケーション不足があり、職員間の連携、報告、連絡、相談が機能していないため、職員間での介護観の違いや方向性に統一がなく支援方法の統一が図れていない。</p> <p>② 職員間の声かけやご利用者、外部の方への挨拶が少なく、ご利用者に対する態度、言葉遣い、接遇の面で不適切な言動がみられることがある。</p> <p>③ 日々の全体レクリエーションや個別での散歩、余暇活動への意識が各職員で差があり、レクリエーションや個別での余暇活動等の楽しみに対してのアイデアや取り組みが消極的である。</p> <p>④ 高齢化に伴う機能低下や疾病などによる食事機能の低下に伴い、低栄養状態のご利用者の増加が懸念される。</p> | <p>① 介護リーダーを中心として、職員同士がコミュニケーション、報告、連絡、相談がしやすい職場環境を整備する。</p> <p>② 明るい挨拶をはじめとし、ご利用者に笑顔で丁寧な言葉遣いで接する。</p> <p>③ 日々の余暇活動の充実を図り、各職員が利用者へ関わる時間を捻出しQOLの向上を図る。</p> <p>④ ご利用者に応じた食事の提供により、安全な食事摂取、低栄養状態の改善を図る。</p> | <p>① 日々の職員間のコミュニケーションを介護リーダーが中心に積極的に働きかけ、職員面談等を通じて意識の共有を図り、職員間での円滑な報告、連絡、相談を行いやすい環境をつくる。リーダーミーティングを定期的で開催し看護師や栄養士等の他職種にも参加してもらい、ケア方針の統一を図る。職員自身も行事やケアカンファレンス、各種会議を通じて自主的に考え発言し、行動できる機会を確保する。</p> <p>② 勉強会や施設内研修などへの参加、コミュニケーションなどを通じて、専門職としての自覚を持ち、職員やご利用者、ご家族、外部の方に挨拶を行い、日々の業務の中でコミュニケーションを図り、明るく笑顔で接する。</p> <p>③ 業務としてのレクリエーション活動機会や個別に関わりを持てる余暇活動の時間を確保し、各職員職種を問わず、職員が関わりを持てる機会を持つ。レクリエーションにも積極的に職員が参加し、実施していくことで職員のスキル向上を図っていく。</p> <p>④ 多職種協働、嘱託医との連携を深め、食の楽しみも残しながら食事形態の検討や必要に応じて栄養剤の使用など、ご利用者に応じた栄養マネジメントの実践を行う。</p> |
| <p>ケア</p>             | <p>① 認知症や精神面等の症状で、他者への迷惑行為や不満が大きくなりつつある。</p> <p>② 高齢化が進み、ADLの低下に伴い、QOLの低下が著しい。</p>  | <p>① 問題行為が出現する前に、日々の言動にも注意、観察しトラブルを回避出来るように支援する。</p> <p>② 日常生活が送れるように、状態に応じて介護サービス等の利用の提案や助言を行いながら意欲が向上できるよう支援する。</p>  | <p>① 日々の関わりの中で心身の状態変化を観察し必要に応じてご家族や、他職種にも協力を仰ぎながら精神面等の安定を図り、他者とのトラブルがないように努める。</p> <p>② 日々の状態把握に努め、他職種又は、ご家族とも連携を図りながら日常生活が維持できるように努める。</p>   |
| <p>デイ</p>             | <p>① 利用者の情報共有や新たな発見などミーティングや日常的に話す習慣がついてきている。しかし午前レクについては座ってするものに限定しすぎているところや、マンネリの部分もあり、内容の工夫はされているものの、座って過ごさないといけないという印象を持っているご利用者も多い。</p> <p>② 1年を通して介護技術は上がっているが、やはりパターン化した介助になっており、個々に応じたケアが十分でない場面がある。思い込みで職員主体のケアとなっているところがある。</p>   | <p>① ご利用者のニーズに応じて可能な事には取り組み、サービスの内容がパターン化し過ぎないように職員間で工夫をして、ご利用者の機能活用機会を増やしていく。</p> <p>② 介護技術の向上と応用力をつける。</p>   | <p>① ご利用者の情報共有は引き続き実施していき、そこからどんな事ができるのか、決まったパターンにとらわれずにご利用者にとって楽しいサービス活動の機会を作っていく。また、その都度反省や改善を行い、サービスの充実を図る。</p> <p>② 思い込みの介助とならないよう職員一人一人が介助の意味を理解し、理由を考え聞く習慣をつけ、利用者主体の視点でケアに当たれるよう、日常業務以外にもデイ研修等を活用して指導する機会を作っていく。</p>  |
| <p>ヘル</p>             | <p>① 提供記録の記入漏れや間違いが多い。</p> <p>② 専門的な知識が乏しい。</p>   | <p>① 提供記録を書く目的を理解し、情報が正しく伝わるように記す。</p> <p>② 利用者の状態に応じたサービスが提供できるよう、専門職としての責任感を持つ。</p>  | <p>① 訪問時の振り返りを行いながら丁寧に記入するよう、サービス提供責任者から職員に促しをしていく。</p> <p>② 勉強会の実施と研修への積極的な参加を心掛ける。</p>  |
| <p>支援</p>             | <p>① 核家族化の増加や介護者の高齢化に伴い、介護者の理解が乏しくなり、利用者の問題点が浮き上がりにくく、利用者に対して在宅サービスがつながりにくい。</p> <p>② 独居生活を行う利用者に対しての援助が介護保険だけでは難しく、入所サービスへの移行が増えてきた。</p>   | <p>① 利用者・家族の生活状態を把握し、事業所等からの情報を交えながら利用プランの見直しを行うことにより、在宅での生活が続けられるような支援を行っていく。</p> <p>② 独自の事業所のサービスやインフォーマルサービス等を検討しながら、自分らしい在宅生活が続けられるように支援を行っていく。</p>  | <p>① 他事業所・家族との連携を密に図り、安心して自宅で生活が送れるよう支援を行っていく。</p> <p>② 集団指導・研修・地域ケア会議、他事業所との連携を密に図り、職員会議にて情報を共有し、在宅生活が続けられるように支援を行っていく。</p>  |
| <p>事務</p>             | <p>① 職務内容に対して、理解に乏しい部分がある。</p> <p>② 規定やマニュアルが現代と不一致などところがある。</p>  | <p>① 個々の知識、意欲の向上とコミュニケーション能力を身につける。</p> <p>② 情報収集に努め、時代に合った内容に整備する。</p>  | <p>① 報告・連絡・相談を必ず行い、会話することでさらなる理解が得られるようコミュニケーションをとる。</p> <p>② インターネット等を活用し、知識、情報を習得できるよう努める。</p>  |